

Q₈

点滴中に血管が痛いときは どうしたらいいですか？

点滴中に痛みを感じたら、すぐに医師または看護師に伝えてください。点滴中に痛みを感じるのにはいくつかの原因があります。

1) 抗がん剤が血管の外に漏れている場合

直ちに点滴を中止し医師の診察を受けます。抗がん剤の種類によっては、治療が必要となります。

2) 抗がん剤による血管への刺激が痛みと感ずる場合

抗がん剤の中には、点滴中に血管痛を感じやすい薬があります（商品名ジェムザール、ダカルバジン、エルプラットなど）。その場合は、①点滴の部位を温め血管を拡げる、②抗がん剤の溶解液の変更、③薬の濃度を薄める、④遮光が必要な薬は遮光を確実にする——など、薬によって痛みを緩和する方法は異なります。

3) 抗がん剤による静脈炎

抗がん剤の中には、手や足などの細い静脈から点滴する場合、血管の炎症をおこしやすい薬があります（商品名ナベルピン、エピルピシン、アドリアシン、エルプラット、ドセタキセルなど）。予防することは難しいのですが、肘～手先にかけて太く・まっすぐな血管から

点滴をすることは、静脈炎の予防に効果的だといわれています。

痛みを感じるときは、抗がん剤の種類によって対処方法は様々です。決して「こんなもんだ」とは思わずに医師や看護師に伝えてください。

（岡本泰子）

外来で抗がん剤治療をするときの治療前の採血について

病院によっては、採血は「採血室」でおこない、点滴をする医療者と採血をする医療者が異なる場合があります。

血管が細く点滴が難しい方は、「（左右どちらかの）肘近くの大きな血管は治療用に残しておいてください」と自ら伝えることが必要な場合もあります。抗がん剤治療の点滴をどの血管から行うか選ぶことは大切です。日頃から遠慮なく医師や看護師にご相談ください。